



『今月の一枚』
家庭教育支援事業(手作り水引講座)

「自分で考える力」を身に付けさせる

昔から、夏休みや冬休みの宿題の一つとして、「読書感想文」があります。私が小学生だった40数年前にもありました。休みの終盤になり、親に急かされて何とか一冊読み終え、原稿用紙に向かいましたが、うまく書けずに苦労した思い出があります。

次の文章をお読みください。ある「小学生」が、読書感想文全国コンクール課題図書を読んで書いたものです。

「ライオンのくにのネズミ」読書感想文

私はこのお話を読んで、とてもおもしろいと思いました。ネズミは小さくて弱いけれど、勇気を持ってライオンの国に行きました。最初はこわかったけれど、ネズミは自分の力を信じて、困っている人を助けました。

このお話から、どんなに小さくても、勇気を持って行動すれば、みんなに役に立つことができるわかりました。私も、何か困ったことがあったら、あきらめずにがんばりたいです。

また、ライオンも優しい動物だとわかって、びっくりしました。みんなが仲良くできるといいなと思いました。

この本を読んで、勇気と友情の大切さを学びました。これからも、いろいろな本を読んで、たくさんのこと学びたいです。

「特に違和感なく読むことができた」という方が多いのではないでしょうか。

実は、この文章を書いた「小学生」はA1です。「ライオンのくにのネズミ、小学生、読書感想文」というキーワードを入れて実行すると、わずか1~2秒で作成されました。

A1を使ってレポートや論文を提出する学生が増えており、評価をする大学の教員が苦慮しているという話を聞きます。そのようなレポートを提出することに抵抗感を持たない学生も少なくないようです。私も仕事をする上で、自分の考えを含める必要のない定型的な文書を作成する際に、A1を使うことがあります。業務の効率は格段に上がりります。

学校で勤務していた時代は、毎月、学校だよりの巻頭言を書いていました。保護者や児童生徒、地域住民の方々が読むことを考え、その内容や表現方法には細心の注意を払いました。A4版1枚の原稿を書き上げるのに最低でも2時間は費やしました。その際、様々な書籍やインターネット上の情報を参考にしつつも、「自分で考え、自分の言葉を使って書く」ことを心がけていました。

A1が簡単に模範解答を示してくれる時代において、「自分で考える力」を身に付けているかどうかが問われているのではないでしょうか。思考力の基盤となる基礎的・基本的な知識を子どもたちに身に付けさせることは、学校教育に課せられた使命です。

「読み」「書き」「計算」の大切さは、今も昔も変わりません。

知識や技能を生かして、様々な事柄に興味を持ち、試行錯誤を繰り返しながら学び続けようとする力を身につけさせたいと思います。

砂川市教育委員会指導参事 神島亘基